こくさいタイムズ 第２号 JAN. 16th, 2026　中井中学校 国際教室

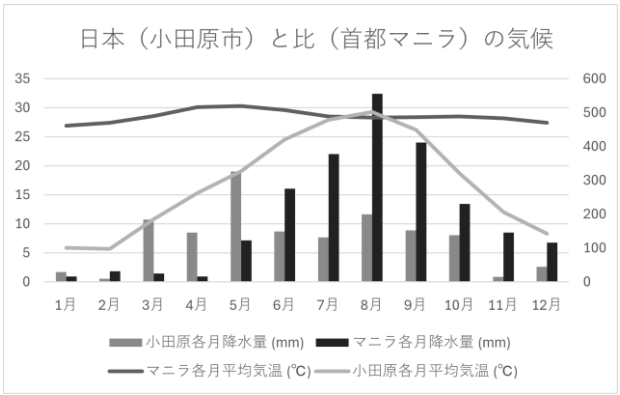
「フィリピン」特集 vol. 2

　創刊号に続き、第２号でも「知っていそうであまり知らないかもしれない国･フィリピン」を特集します。
　地理編のつづきです。

ac-illust.comより借用･加筆

フィリピンの気候

　１年生の地理の授業で勉強した通り、日本の気候は「温帯」の中でも「温暖湿潤気候」に区分され「四季がはっきりしている」のが特徴のひとつです。過ごしやすい春と秋の間に、平均気温が最も高い夏と、最も低い冬がありますね。（といっても、10月いっぱい30℃近辺の高気温の年が多くなってきたので「秋」があるような、ないような…に近づいてしまっていますが。）
　一方、比は日本のはるか南、つまり赤道近くにあるため、その気候は「熱帯」に区分されます。「熱帯」はさらに「熱帯雨林気候」と「サバナ気候」に分けられますが、ルソン島北部を除き、比全域が「熱帯雨林気候」に属します。したがって年間を通じて気温が高く、雨季と乾季があります。
　首都マニラの年間平均気温は28.5℃、６月～11月が「雨季」、11月～２月は「涼しい乾季」、３月～５月が「暑い乾季」で、最も暑い５月の平均気温は30.3℃、最も涼しい１月は26.9℃で、年間の気温変化が3.5℃程度となっています。【気象庁HP「地点別平年値ﾃﾞｰﾀ･ｸﾞﾗﾌ」より】



気象庁HPデータより筆者作成

主食は米！！

　地理的に近く、古くから交流のあった中国、またかつてスペインやアメリカに統治されてきた歴史があるので、ハレの日の行事食である「豚の丸焼き」＝『レチョン（中国料理ルーツと言われています）』「肉の酢･醤油･にんにく煮込み」＝『アドボ（ｽﾍﾟｲﾝ語のadobar「浸す」が語源だそうです）』そして「フライドチキン(ｱﾒﾘｶ料理)」が人気だったり、現在の比食文化にもこれらの国の影響が表れています。比はキリスト教国と言えるのでパンが主食のようなイメージがわくかもしれませんが、伝統的に主食は米です。ただし日本の米のように粘り気が強い「ジャポニカ米」ではなく、さらっとしている「インディカ米･長粒種」です。
　上の「比の気候」に書いたように、年間を通じて温暖なので、米の「二期作」どころか「三期作」ができるそうです。１年のうちに３回、つまり単純に考えれば４カ月ごとに米が収穫できることになります。「稲刈りをしている隣で、田植えをしている」ということがあり得るわけですね。比の米自給率は以前より下がってしまったそうですが、それでも80%をキープしています。
　それから、比と言えばトロピカルフルーツ！バナナやパイナップル、マンゴーは、私たち日本人にもイメージしやすい比の特産品ですね。独特の食感で人気のあるデザート「ナタ･デ･ココ」の原料であるココナッツも比の主要農産物ですし、過去の乱伐で生産量が減ってしまっているそうですが、マホガニーやラワン等、楽器や家具に使われる木材も比の重要な輸出品です。

日本人にはunbelievable!!!な、フィリピンの人たちの「あたりまえ」？！

　創刊号に書いた通り、比は7,600余の島からなる日本と同じ島国です。同じ日本語と言っても、青森育ちの人と鹿児島育ちの人の話す言葉がかなり違って聞こえるように（この場合、同言語内の「方言」と言いますね）、比国内でも「様々な言葉」というより「言語」が使われています。
　それらは「一つの言語の方言」というものではなく「まったく別の言語」、つまり英語と日本語の関係くらい違いがあるものです。「隣の島の人たちは、自分とまったく違う言語を使っている」というような感覚なのでしょう。
　比の国語とされているのは、首都マニラ付近の言語である「タガログ語」ですが、中部ビサヤ地方から南部ミンダナオ地方では、「ビサヤ語」（または「セブアノ語」と呼ばれます）が使われています。他にもｲﾛｶﾉ語、ｲﾛﾝｺﾞ語、ﾋﾞｺｰﾙ語、ﾜﾗｲ語…など地域特有の数々の言語が使われています。
　また、かつてアメリカに統治されていた歴史があるため英語が広く使われ、タガログ語と並ぶ公用語（政府機関など公の場で使う言語）となっています。比の小中学校では、タガログ語で書かれた教科書が主として使われますが、教科によっては英語で書かれた教科書が使われているそうです。テレビ放送や新聞も英語が多かったり．．．。
　ということで･･･例えばミンダナオ島出身の人の場合「家族と話す時はもちろん**ビサヤ語**、新聞･テレビは**英語**で見たり読んだり、マニラの友だちとは**タガログ語**で話す」というのがあたりまえなのだそうです。これだけで、すでにtrilingual（トライリンガル＝３言語使用者）ですね！
　How unbelievably amazing they are!!